

岡山県教育委員会 殿

岡山県立興陽高等学校長
山村 修 印

令和3年度 岡山県立興陽高等学校 学校評価書

1 自己評価

I 評価結果（別紙参照）

II 分析・改善方策

学校経営計画書の学校経営目標を5つの評価項目に分けて具体的な評価目標を提示することにより、目標達成に向けた具体的な方策を設定しやすくしている。年度当初に各課長を中心に方策を設定し、10月に中間期の検証を、3月に最終の評価を行った。

学校生活全般における挨拶の励行、言葉遣いなど基本的マナーや規範意識の定着を目指した取組、家庭学習時間の向上やオンライン授業の試み、環境整備・ゴミの分別等による美化意識の向上、企業見学やインターンシップ等のキャリア教育の推進について、また、コロナ禍で制約のある中、専門学科における関係機関との連携、学習の深化や地域貢献に対する充実感を得ることのできる各種行事など、形を変えて可能な範囲ではあったが確かな成果を上げており今後も着実に実施していきたい。

また、コロナ禍ではあったが、体育祭・文化祭などの様々な行事を通して主体的に行動する生徒の育成や、専門性を生かした進路開拓と進路実現に成果が見られた。今後も、引き続き具体的な計画を立案していく。

年度末には、自己評価及び関係者評価をもとに各課で討議し、課題を踏まえた来年度の具体的な目標の策定を行う。

2 学校関係者評価委員名

池上 博道（岡山市藤田公民館長）	尾崎 信重（（株）トンボ 勤務課 課長）
岡 明弘（本校元PTA会長）	国定 豪（本校同窓会副会長）
平井 照代（JA岡山藤田支所長）	森藤 晴美（本校PTA副会長）

3 学校関係者評価

少しづつではあるが評価の点数が右肩上がりになっているのは、学校経営目標・計画がまずまずの成果を上げていることの表れだと判断する。特に進路実現力の目標を上回る評価に、先生方の努力を感じる。基礎学力の向上は、まずは意識改革から取り組むのがよい。生徒の主体性を伸ばすためには、いかに教員が生徒に課題を与え、「自分で考え、判断し、行動する」ための時間を十分確保するかがカギである。そこで小さな成長を繰り返し、自信を持たせ、できるまでじつくりと待つことが大切である。

コロナ禍にもかかわらず、前年度より活発な活動ができており、特に興陽高校の入試倍率が上がったことは様々な取組の成果の表れである。今後も興陽高校ならできる、興陽高校でしかできない取組をさらに充実をさせて欲しいなど、現状の方向を維持・発展させていくべきとの意見を多くいただいた。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

これまで取り組んできたことをさらに継続・推進し、実際に生徒が社会の変化に対応できるよう、育てたい生徒像（Graduation Policy）として「凡事徹底する力」「前に踏み出す力」「主体的に学ぶ力」「進路実現する力」「自己肯定感を高める力」の5つの力の育成を目指す。来年度の具体的な学校経営目標を、「Graduation Policyで示した5つの力の育成」「Next100に向けての魅力ある学校づくり」とし、現在、地域と連携している学びの場を大切に、より質の高い学びの場になるようにし、本校の魅力を積極的に情報発信できるようにする。

「興陽魂を発揮して Oneアクション！ Oneレベルアップ！」「興陽ならしか！ 勇気を持ってチャレンジをしよう！」をスローガンに、さらにもう一つ上を目指し、新たな行動を始められるよう取り組み、地域社会に貢献できる将来のスペシャリストの育成を目指す。